

5 ワーク・ライフ・バランスに関する意識調査結果

5.1. ワーク・ライフ・バランスに関する意識調査の概要

5.1.1 調査の目的

本調査は、「ワーク・ライフ・バランス」という用語の認知度を把握することを目的に、先の個人調査と同時に実施したものである。ただし、調査対象については過去の同目的調査との比較が可能なように、被雇用者も含めた国民全体を対象としている。

5.1.2 調査設計

本調査では、できる限り母集団に準拠するよう、以下の条件の個人を対象とした。

- 20歳～59歳の男女
- 居住地、性年代別のバランスなどは、国勢調査に準拠

以上の条件を満たすよう「インテージ・ネットモニター」から抽出し、500人回収を目標に実施した。

5.1.3 調査手法

調査手法：インターネット調査

5.1.4 調査実施時期

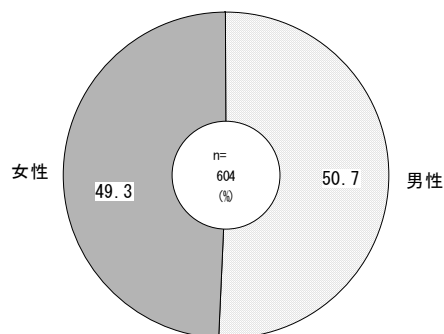
平成24（2012）年10月25日～10月29日

5 ワーク・ライフ・バランスに関する意識調査結果

5.1.5 回答者の基本属性

- 性別構成は、男女ほぼ半々で年代による偏りもみられない。
- 男性の6割（60.5%）は「会社員・団体職員」となっている。一方で女性の3割以上（34.9%）は「専業主婦、家事手伝い」となっており、学生や無職合わせて4割（43.6%）は非就労となっている。

■図表 100 性別

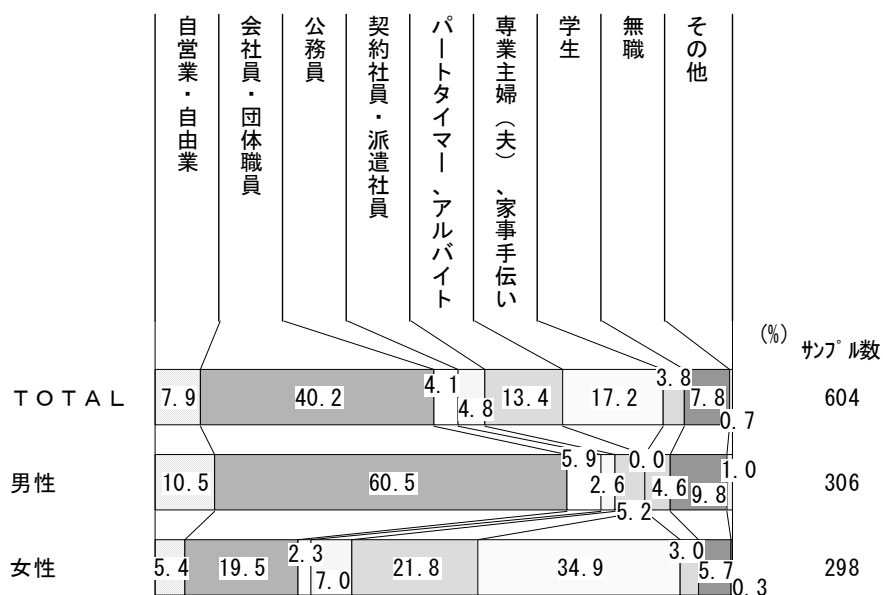


■図表 101 性別にみる、年代

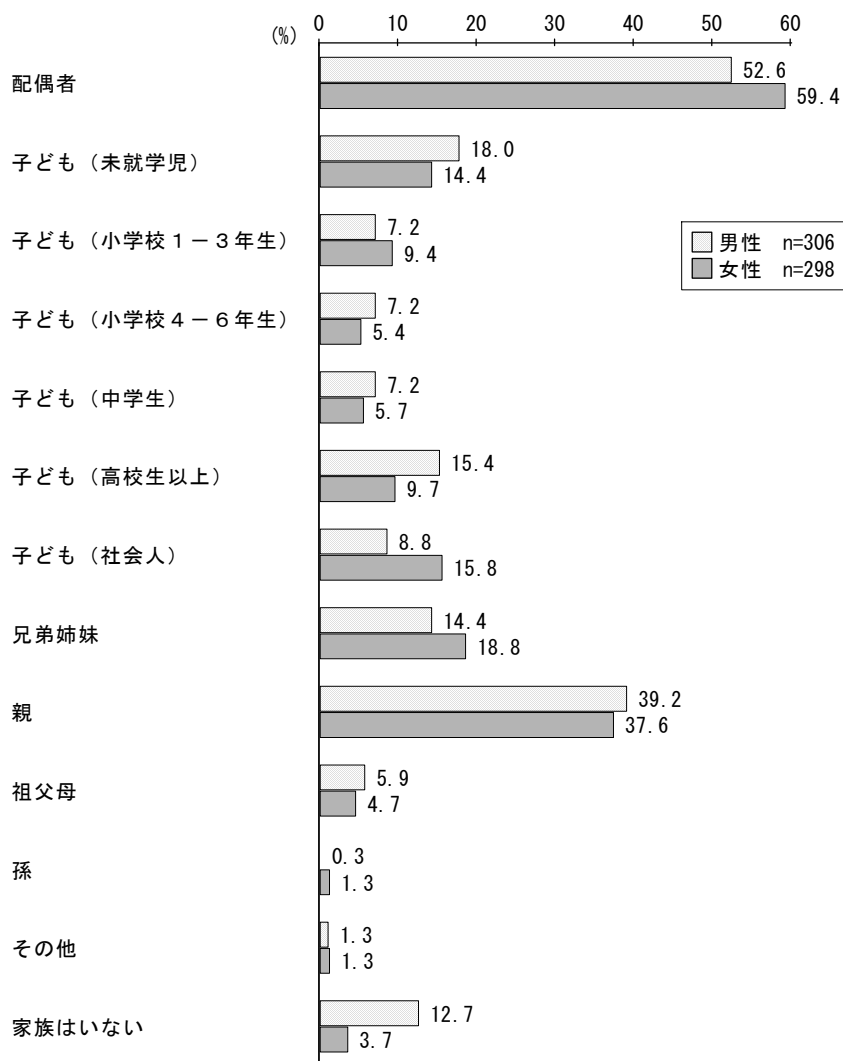
	20代	30代	40代	50代	(%) サンプル数/平均
TOTAL	22.2	25.8	27.8	24.2	604 40.9
男性	22.2	25.2	29.4	23.2	306 40.8
女性	22.1	26.5	26.2	25.2	298 41.1

5 ワーク・ライフ・バランスに関する意識調査結果

■ 図表 102 性別にみる、職業



■ 図表 103 性別にみる、家族構成



5.2 ワーク・ライフ・バランスの言葉の認知度について

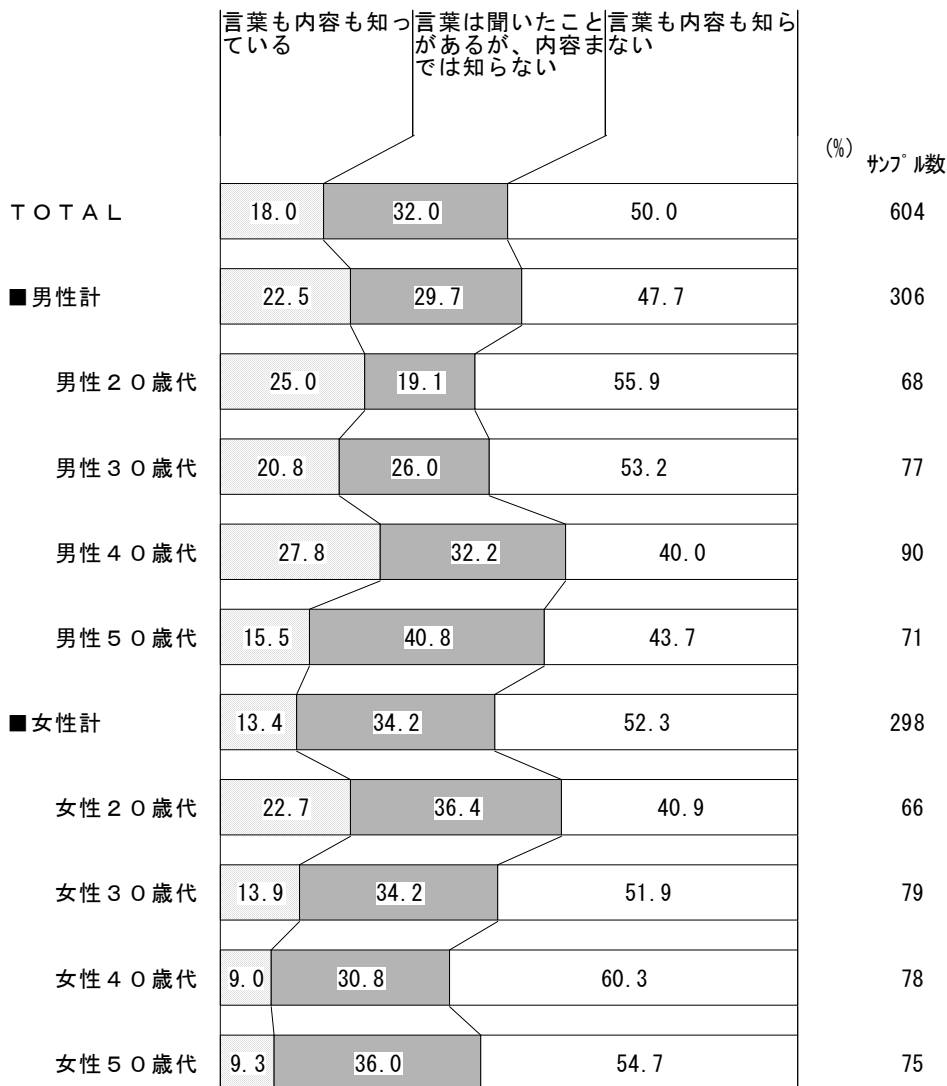
- 「言葉も内容も知っている」人は全体の2割弱（18.0%）。女性に比べて男性のほうがやや知っている人が多い。40歳代女性では「言葉も内容も知らない」人が6割（60.3%）を占めている。
- 言葉を知っていた人にいつ頃知ったのかたずねたところ、「最近知った」人が2割を超えており（22.5%）認知が進んでいることがわかる。男女とも上の年代に認知が進んでいる。
- また、認知経路については「新聞・テレビなど」が最も多く、特に女性では6割を占める（61.3%）。

問 22 あなたは、「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」という言葉をどの程度ご存知ですか。

問 22-1 「言葉も内容も知っている」「言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない」と答えた方いかがいます。いつ頃知りましたか。

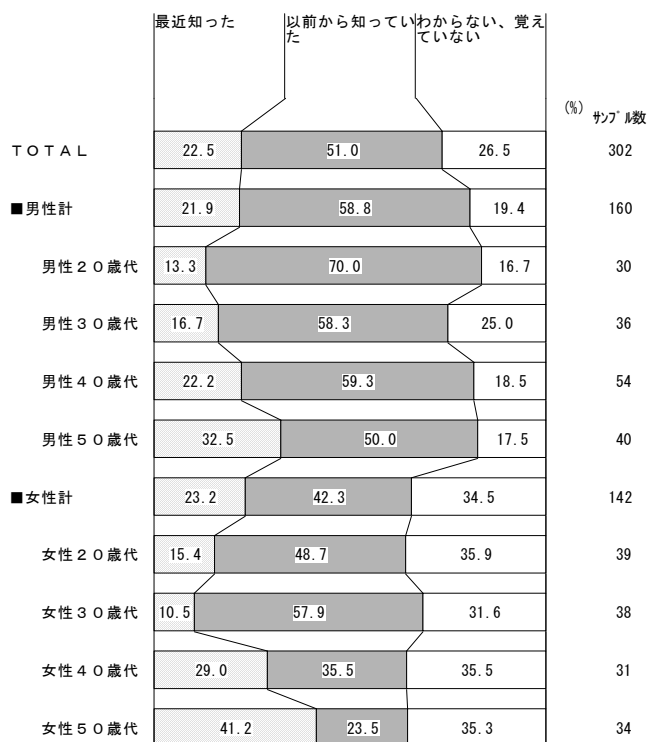
問 22-2 どのような情報やきっかけで知りましたか。

■図表 104 性年代別にみる、ワーク・ライフ・バランスの言葉の認知度について

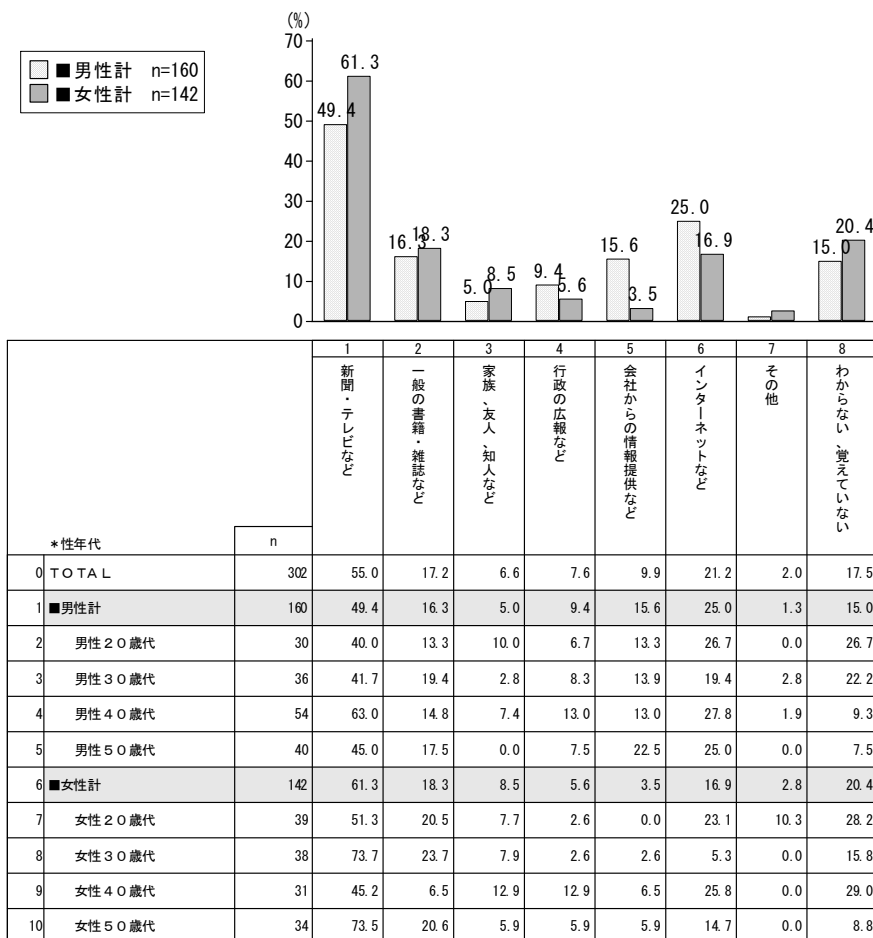


5 ワーク・ライフ・バランスに関する意識調査結果

■図表 105 性年代別にみる、ワーク・ライフ・バランスの言葉の認知時期



■図表 106 性年代別にみる、ワーク・ライフ・バランスの言葉の認知経路（複数回答）

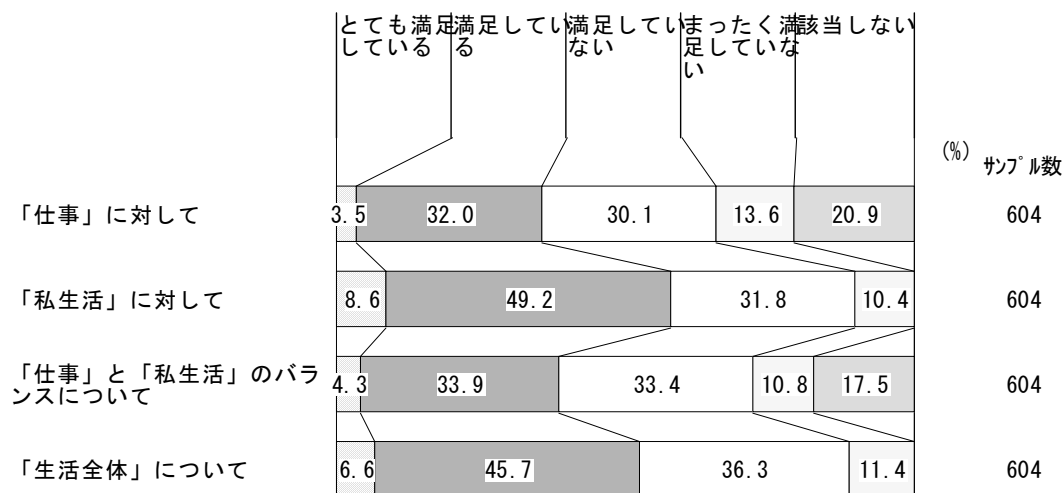


5.3 生活全体についての満足度

- 「私生活」に対してが、相対的にもっとも満足の傾向にある人が多い。
- 「仕事」に対しては、30歳代女性で「まったく満足していない」割合が高くなっている（25.3%）。また、「仕事」と「私生活」のバランスに対しても、同じく30歳代女性で「まったく満足していない」の割合が高い（15.2%）。

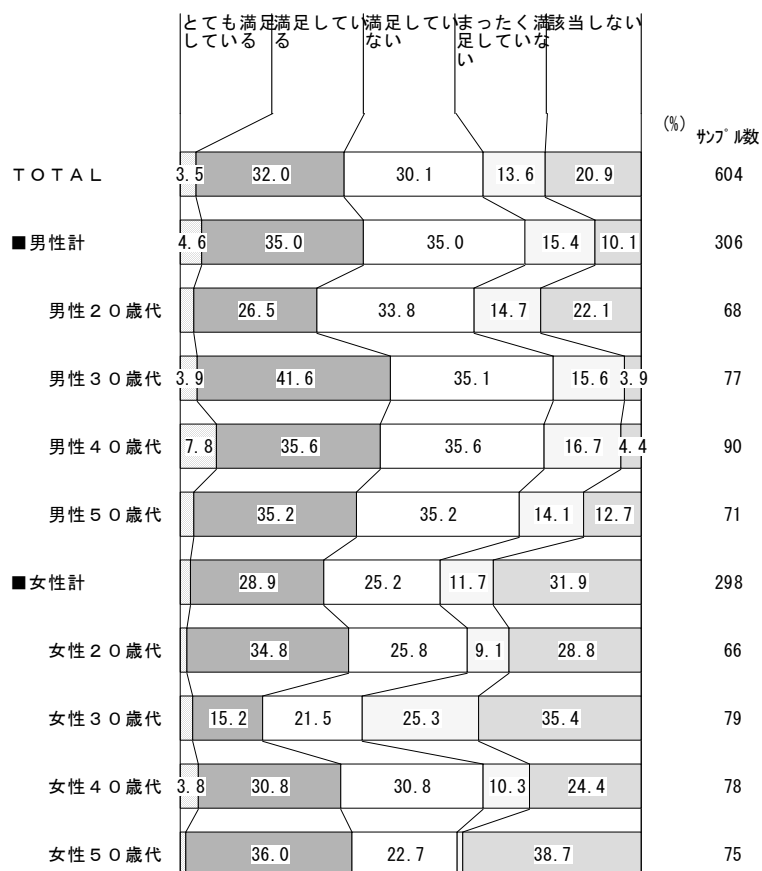
問 20 あなたの仕事や生活（家庭生活や地域での活動、自分のやりたいこと）、そのバランス、および生活全体について、現在の満足度をお知らせください。

■ 図表 107 満足度（仕事／私生活／仕事と私生活のバランス／生活全体）

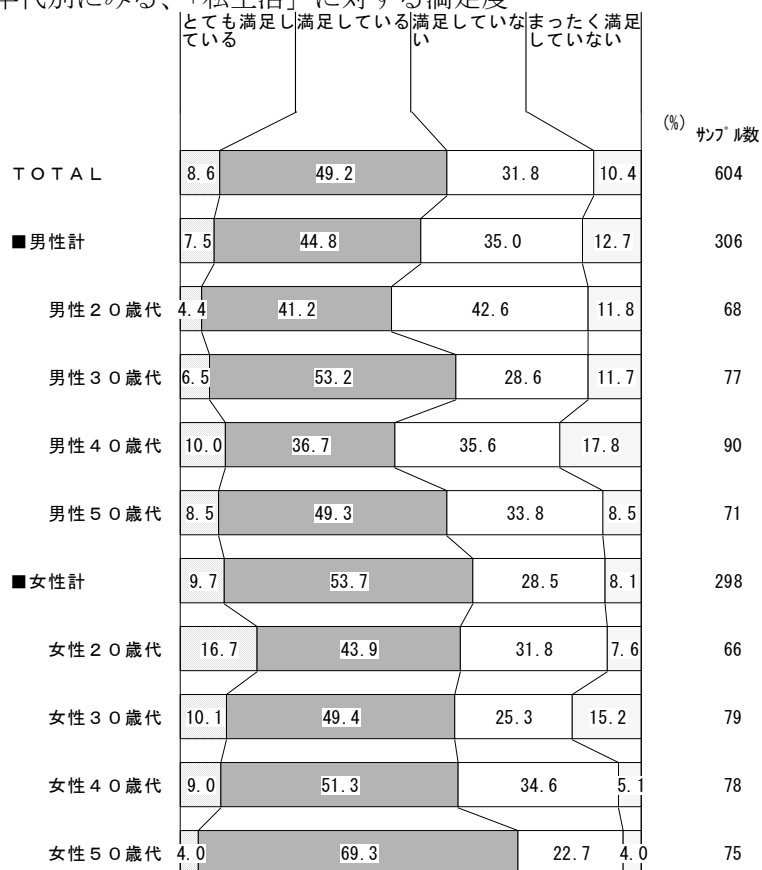


5 ワーク・ライフ・バランスに関する意識調査結果

■図表 108 性・年代別にみる、「仕事」に対する満足度

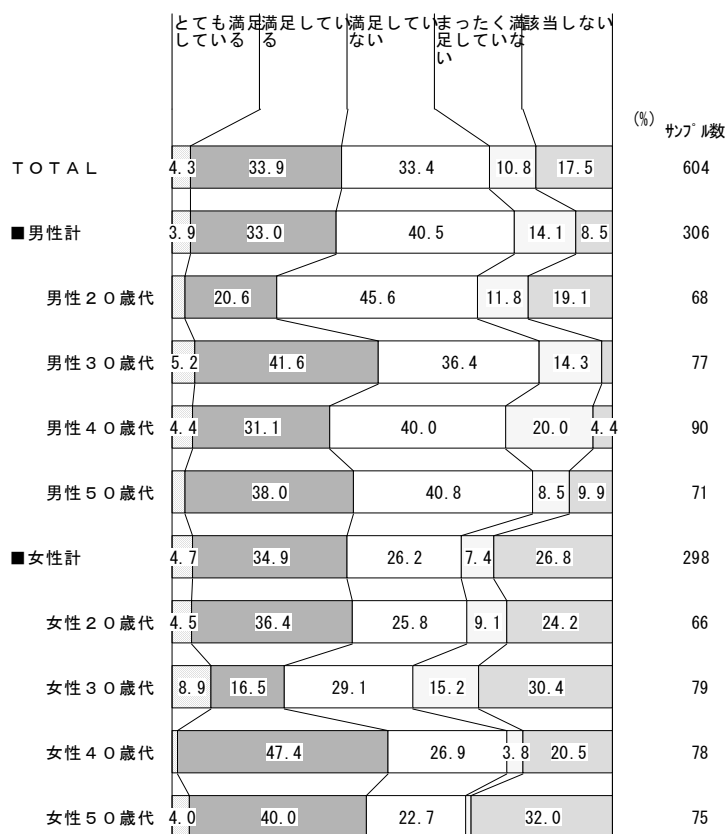


■図表 109 性・年代別にみる、「私生活」に対する満足度

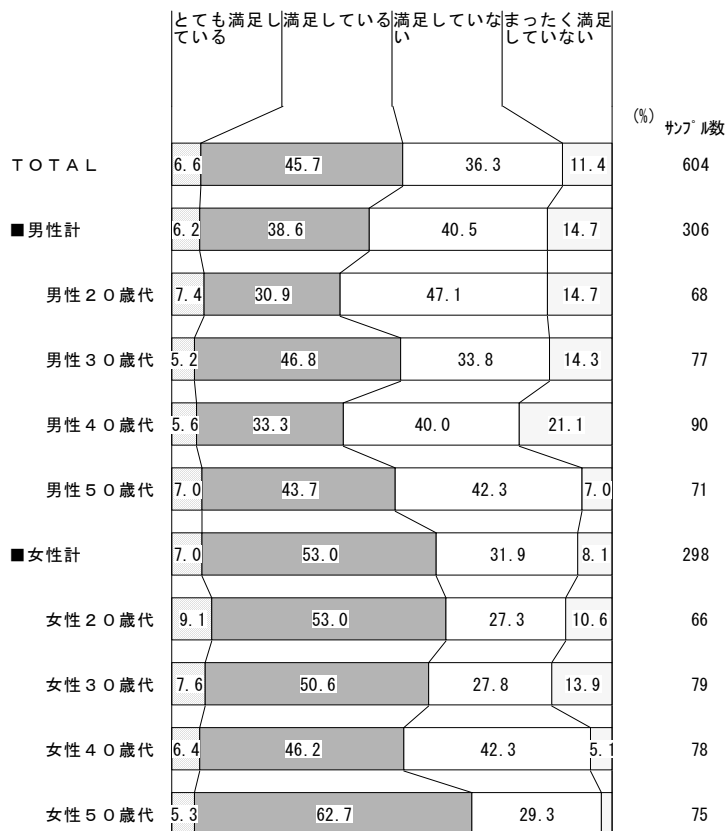


5 ワーク・ライフ・バランスに関する意識調査結果

■図表 110 性・年代別にみる、「仕事」と「私生活」のバランスに対する満足度



■図表 111 性・年代別にみる、「生活全体」に対する満足度



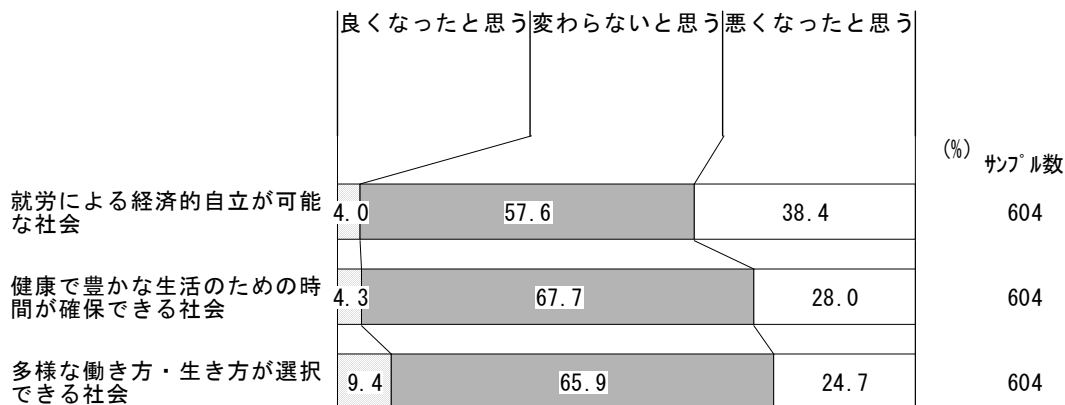
5.4 「仕事と生活の調和が実現した社会の姿」について

- 「多様な働き方・生き方が選択できる社会」が1年前に比べて「良くなったと思う」人が1割弱(9.4%)で3つの柱の中で最も評価されている。
- 「就労による経済的自立が可能な社会」に対しては、残念ながら4割(38.4%)の人が「悪くなったと思う」と回答している。
- 総じて、悪化したと評価する人の割合は年代があがるにつれて高くなっている。

問23 政府では「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）が実現した社会」について、以下のような3つの柱を掲げています。あなた自身の生活やまわりの環境から判断して、それぞれ3つの項目が1年前と比較してどのように変化していると思いますか。最も近いものをそれぞれ1つお選びください。

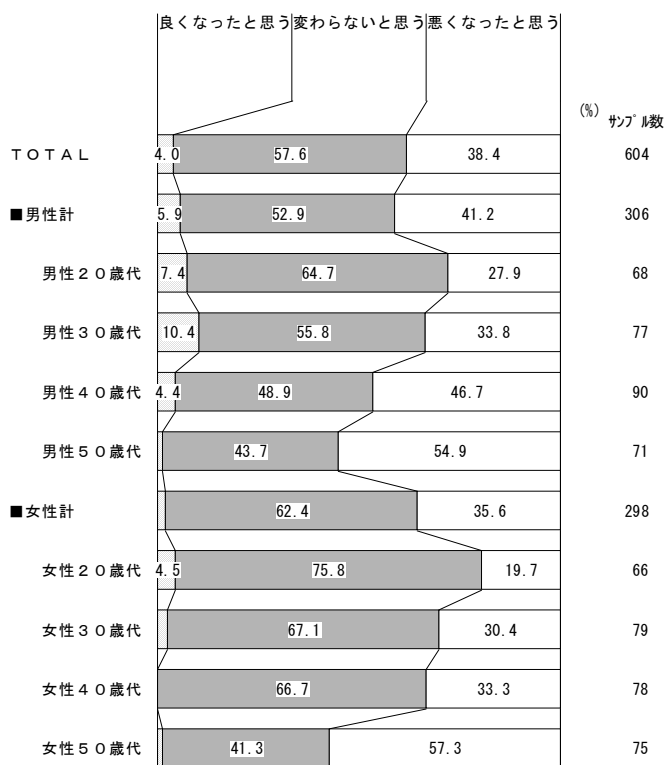
就労による経済的自立が可能な社会	経済的自立を必要とする者、とりわけ若者がいきいきと働くことができ、かつ経済的に自立可能な働き方ができ、結婚や子育てに関する希望の実現などに向けて、暮らしの経済的基盤が確保できる。
(関係数値目標)	就業率・時間当たり労働生産性の伸び率、フリーターの数
健康で豊かな生活のための時間が確保できる社会	働く人々の健康が保持され、家族・友人などとの充実した時間、自己啓発や地域活動への参加のための時間などを持てる豊かな生活ができる。
(関係数値目標)	労働時間等の課題について労使が話し合いの機会を設けている割合、週労働時間 60時間以上の雇用者の割合、年次有給休暇取得率、メンタルヘルスケアに取り組んでいる事業者割合
多様な働き方・生き方が選択できる社会	性や年齢などにかかわらず、誰もが自らの意欲と能力を持って様々な働き方や生き方に挑戦できる機会が提供されており、子育てや親の介護が必要な時期など個人の置かれた状況に応じて多様で柔軟な働き方が選択でき、しかも公正な処遇が確保されている。
(関係数値目標)	テレワーカー比率、短時間勤務を選択できる事業所の割合(短時間正社員制度等)、自己啓発を行っている労働者の割合、第1子出産前後の女性の継続就業率、保育等の子育てサービスを提供している割合、男女の育児休業取得率、6歳未満の子どもをもつ男性の育児・家事関連時間

■図表 112 1年前と比較しての社会の変化

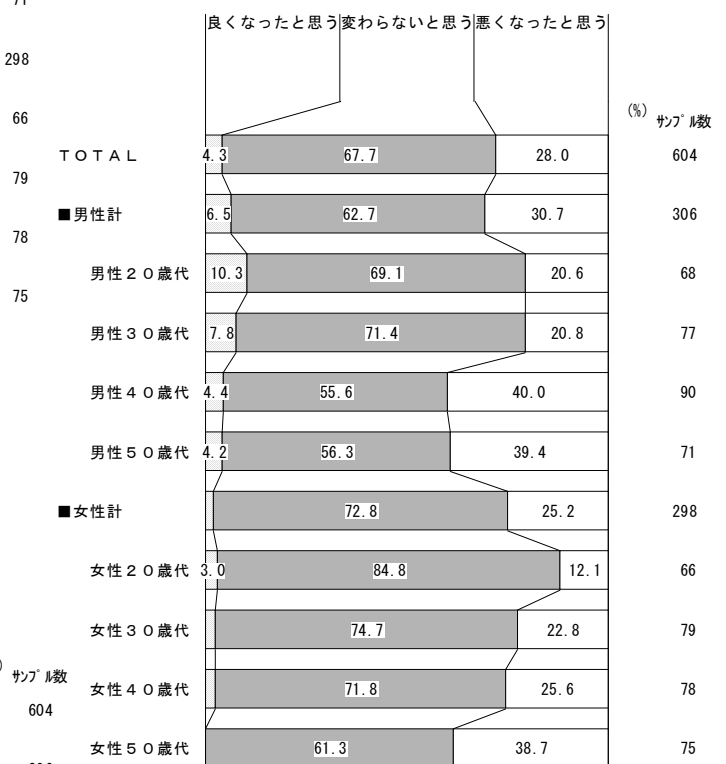


5 ワーク・ライフ・バランスに関する意識調査結果

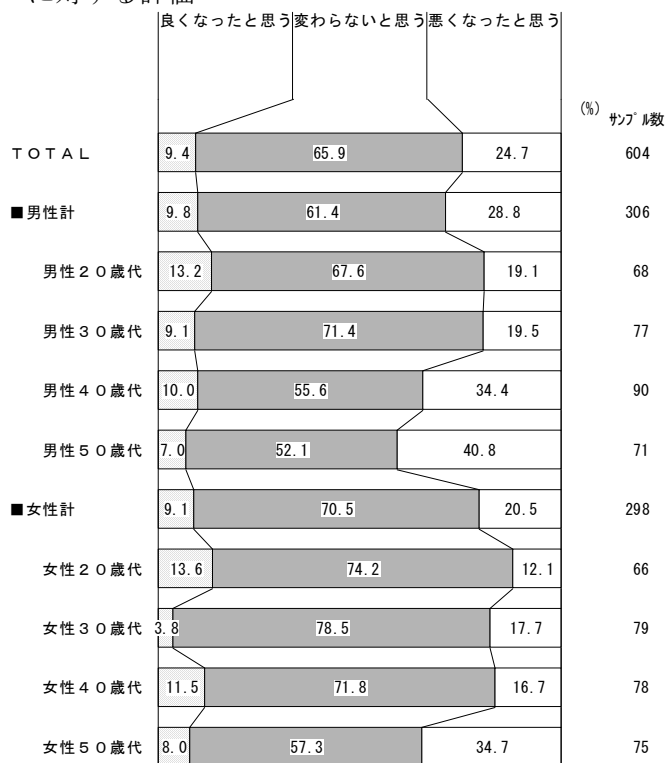
■ 図表 113 性年代別にみる、「就労による経済的自立が可能な社会」に対する評価



■ 図表 114 性年代別にみる、「健康で豊かな生活のための時間が確保できる社会」に対する評価



■ 図表 115 性年代別にみる、「多様な働き方・生き方が選択できる社会」に対する評価

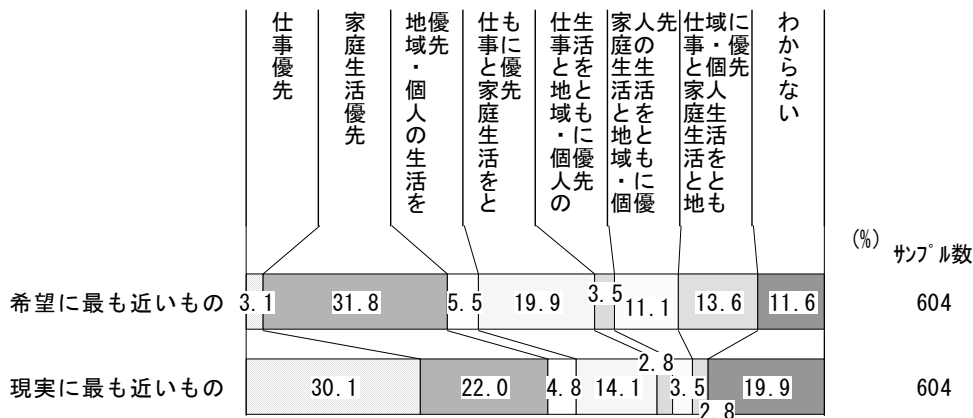


5.5 生活の中での「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度について

- 「仕事優先」を理想としている人はわずか（3.1%）であるが、現実にはその10倍の割合で「仕事優先」となっていると回答されている（30.1%）。
- 男性では現実として「仕事優先」となっている割合が、どの年代でも4割前後を占めている。
- 『理想』と『現実』の一致度をみると、「わからない」を除いて、約3割（28.1%）が一致している。

問 24 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活（地域活動・学習・趣味・付き合い等）」の優先度について希望に最も近いもの、実際に最も近いものについて、それぞれ1つずつお知らせください。

■図表 116 生活の中での「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度についての理想と現実



■図表 117

【現実に近いもの】

	TOTAL	仕事優先	家庭生活優先	地域・個人の生活を優先	仕事と家庭生活をともに優先	仕事と地域・個人の生活をともに優先	家庭生活と地域・個人の生活をともに優先	仕事と家庭生活と地域・個人生活をともに優先	わからない
仕事優先	19	7	6	1	1	0	2	1	
家庭生活優先	100	36.8	31.6	5.3	5.3	0	10.5	5.3	
地域・個人の生活を優先	192	67	80	3	18	3	0	4	
仕事と家庭生活をともに優先	100	34.9	41.7	1.6	9.4	1.6	0	2.1	
仕事と地域・個人の生活をともに優先	33	15	0	11	2	1	1	0	
先人の生活とともに優先	100	45.5	0	33.3	6.1	3	3	0	
地域・個人生活と家庭生活をともに優先	120	46	17	4	35	1	2	2	
仕事と家庭生活と地域・個人生活をともに優先	100	38.3	14.2	3.3	29.2	0.8	1.7	1.7	
先人の生活とともに優先	21	7	3	0	3	5	1	0	
地域・個人生活と家庭生活をともに優先	100	33.3	14.3	0	14.3	23.8	4.8	0	
仕事と地域・個人生活をともに優先	67	21	9	4	8	4	10	1	
先人の生活とともに優先	100	31.3	13.4	6	11.9	6	14.9	1.5	
地域・個人生活と家庭生活をともに優先	82	17	15	5	17	3	5	8	
仕事と家庭生活と地域・個人生活をともに優先	100	20.7	18.3	6.1	20.7	3.7	6.1	9.8	
わからない	70	2	3	1	1	0	0	1	
	100	2.9	4.3	1.4	1.4	0	0	1.4	

一致計: 156
一致率(わからないを除く): 28.8%

5 ワーク・ライフ・バランスに関する意識調査結果

■ 図表 118 性年代別にみる、優先度についての理想と現実

